

# 2022年度 日建連BIMセミナー

BIM部会・建築BIM合同会議の活動概要

建築生産委員会 BIM部会 曾根部会長

# 部分最適から全体最適へ | 建築生産全体で考える

## 国土交通省 | 建築BIM推進会議の設置 (2019)

建築分野における  
BIMの標準ワークフローと  
その活用方策に関する  
ガイドライン  
(第2版)

令和4年3月  
建築BIM推進会議

### 建築生産全体で考えること、とは

- BIMはICT（ツール）と単純にくくってはいけない（人材も職能別に異なる）
- BIM以前に私たちの業務においてデジタル情報をどのように活用してメリットを享受するのかを考えることが大切（BIMモデルを作ることだけが正解でない⇒情報をマネジメント）
- 発注者側も同様。建設で使用したデジタル情報を自分たちの事業にどのように活用したいのか、を示すことが求められる

#### 『ガイドライン（第2版）』 p16

発注者側が、これらの目的をBIM活用により達成しようとする場合、プロセス横断型のBIM活用やライフサイクル全体を通じたBIM活用を通じ、プロセスマネジメントとアセットマネジメントの両面から発注者自身が取組を進める必要があります。

# 日建連建築本部の重点実施事項（2022年度）

## 建築BIMの取り組みは重点事項のひとつ

### 5. 生産性の向上

日建連は生産性向上推進要綱に掲げた「2016年度からの10年間で10%の生産性向上」目標は達成しているが、今後とも建設技能労働者の減少が予測されるため、新たに「2025年度までの5年間で生産性の10%向上（2020年度比）」を目標として設定し、活動を延長、強化する。

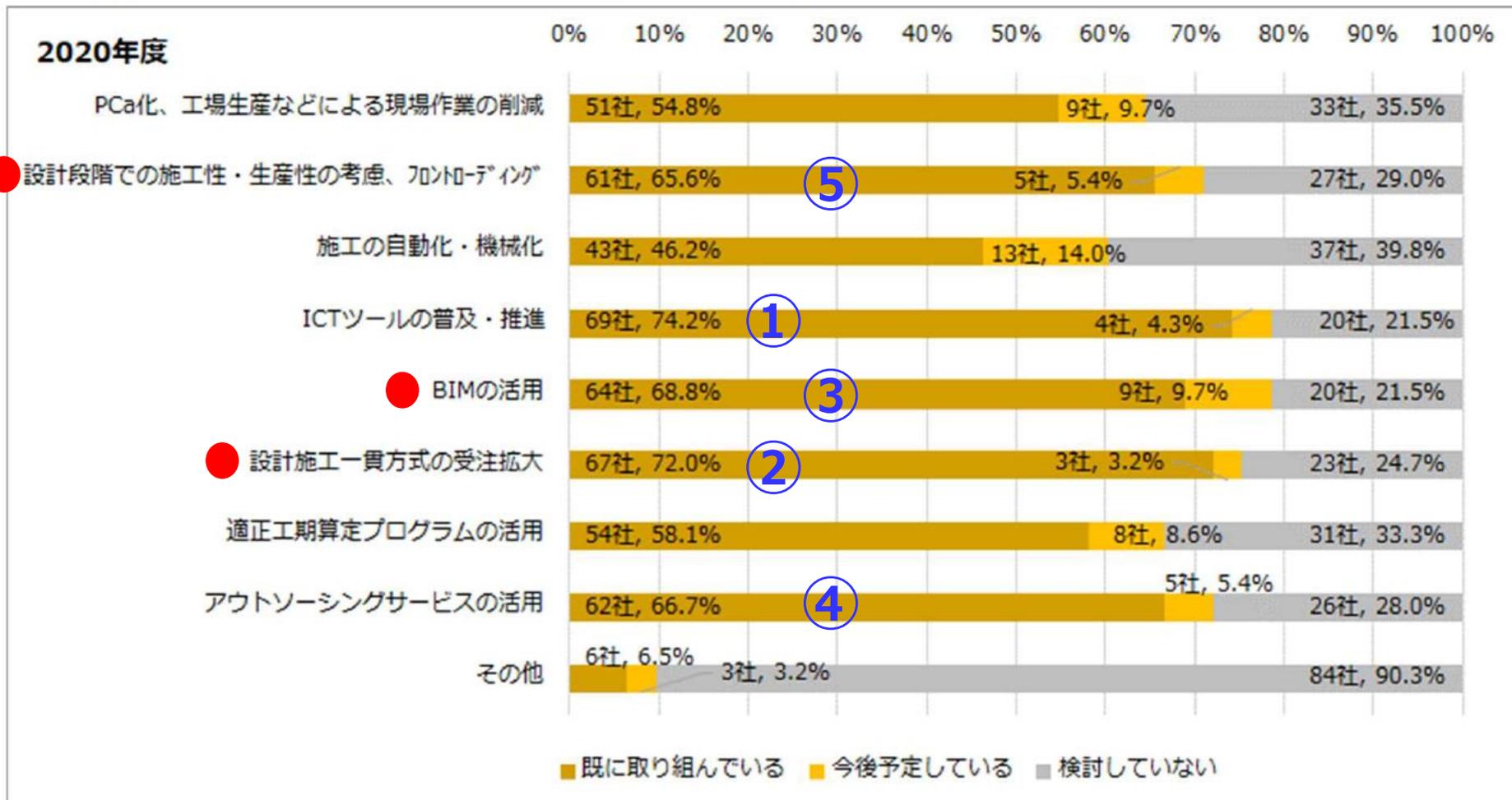
新たな目標の達成に向けて、現在、国土交通省でインフラDXが提唱される中、国をはじめとする発注機関と連携して会員企業が利用できる技術・機器や実施例の共有による普及展開を図るとともに、自動・自律施工の推進のため、革新的な技術の実証を通じた各種基準類の整備、モデル工事等の実施を働きかけ、発注者による遠隔での段階確認、立会いなどの遠隔臨場をはじめ、ICTを活用した監督・検査の効率化、提出書類等のデジタル化を推進し、現場の生産性向上に取り組む。

また、建築BIMについては、設計事務所および専門工事企業と連携した活用、そして設計施工一貫方式の強みを活かした企画から設計、施工、維持管理に至るBIM活用を図り、その潜在的実効性を引き出すため、従来から行ってきた実務的な課題解決への努力、国土交通省のBIM推進会議への参画・提言に加え、セミナーの開催などを建築分野として包括的に取り組むことにより、BIM活用推進を支援する。

# 生産性向上のための具体的な取り組み（2020年）

## 受注方式とBIMとFL ⇒ 設計施工一貫方式のBIMに着目

生産性向上のための具体の取り組み（現在および今後の予定）



# 建築本部 建築BIM合同会議の設置（2021年）

## 委員会横断の会議体組織（日建連初）



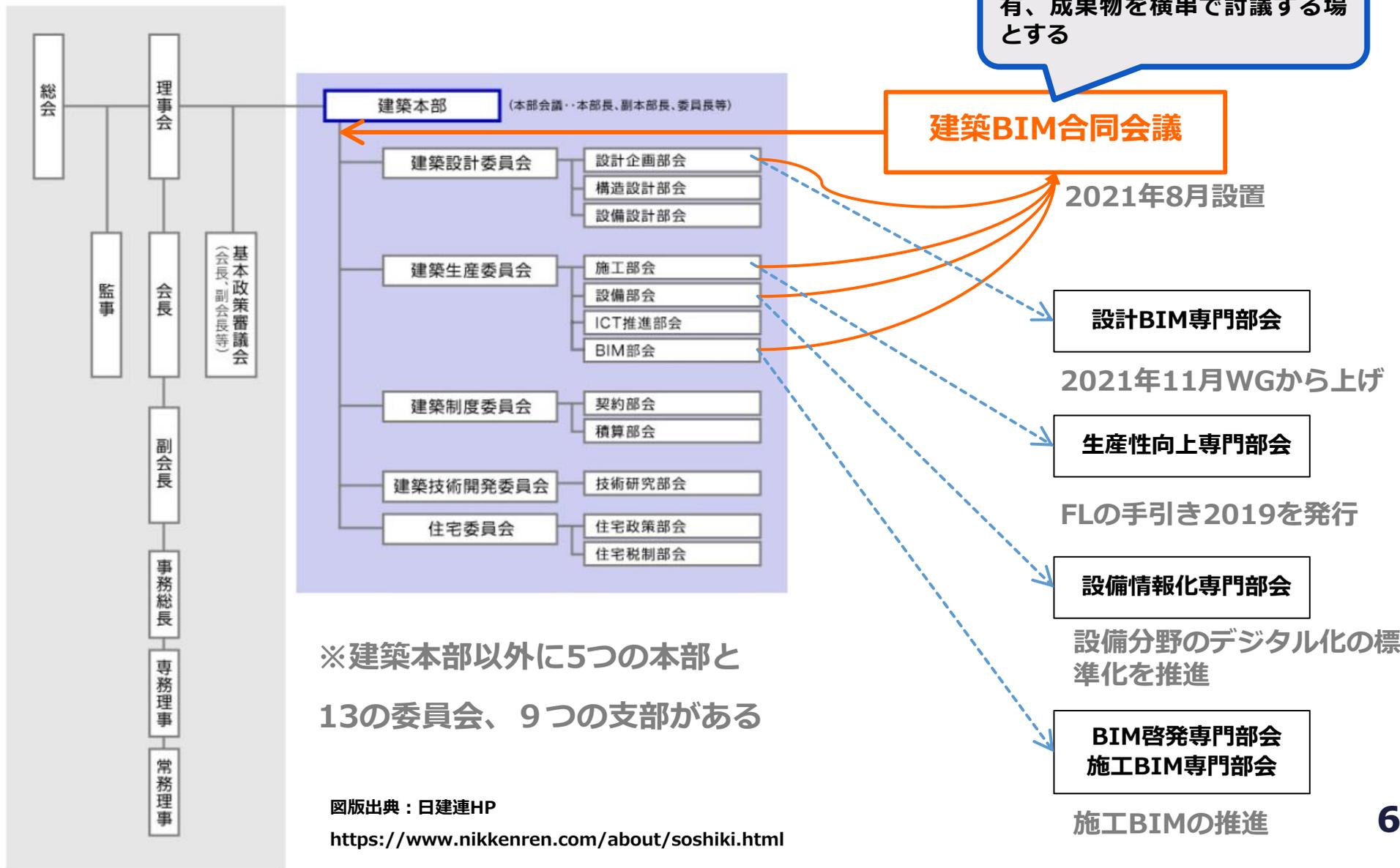
第1回会議の開催状況（2021年8月）

- 日建連におけるBIMの活動は、主に施工BIMの推進・啓発に注力だった
- 建築生産全体でBIMの推進・啓発に関連する部会が一堂に集まり、包括的な議論をおこなう場がなかった
- 建築生産全体でBIMを考えるには、設計施工一貫方式でBIMを実践している日建連の担う役割が重要になる

# 参画している委員会・部会

## 設計施工一貫方式のBIMを視野に入れた活動

各委員会における活動内容の共有、成果物を横串で討議する場とする



# 建築BIM合同会議での検討事項

成果物として資料を解説します

## 今後の活動方針

2030年までのロードマップを制定

日建連の建築BIM | 定義に向けたロードマップ

BIMの将来像

日建連活動項目

セッション2：  
施工BIM専門部会  
(本谷主査から報告)

大項目	中項目	小項目	進捗状況	実施時期	実施場所		
大項目：共通方針	設計施工一貫方式	クラウド型・協業・協働型BIMの活用	○	○	●	2023年度	
		BIM実行計画の策定	○	○	●	2023年度	
		BIM（協業情報提供）	○	○	●	2023年度	
		フロントローディング	●	○	○	2023年度	
		施工現場のデジタル化（現場での活用）	○	○	●	2023年度	
		建設コスト（削減）の削減	○	○	●	2023年度	
		BIM活用	○	○	●	2023年度	
		設計方針	建築生産性、設計情報の関係性の向上	○	○	●	2023年度
		設計方針	設計プロセスの透明化、効率化	○	○	●	2023年度
		設計方針	設計プロセスの透明化、効率化	○	○	●	2023年度
設計・施工	施工現場での設計・施工の連携	設計・施工の連携	○	○	●	2023年度	
		設計・施工の連携	○	○	●	2023年度	
		設計・施工の連携	○	○	●	2023年度	
		設計・施工の連携	○	○	●	2023年度	
		設計・施工の連携	○	○	●	2023年度	
		設計・施工の連携	○	○	●	2023年度	
		設計・施工の連携	○	○	●	2023年度	
		設計・施工の連携	○	○	●	2023年度	
		設計・施工の連携	○	○	●	2023年度	
		設計・施工の連携	○	○	●	2023年度	
設計・施工	設計・施工の連携	設計・施工の連携	○	○	●	2023年度	
		設計・施工の連携	○	○	●	2023年度	
		設計・施工の連携	○	○	●	2023年度	
		設計・施工の連携	○	○	●	2023年度	
		設計・施工の連携	○	○	●	2023年度	
		設計・施工の連携	○	○	●	2023年度	
		設計・施工の連携	○	○	●	2023年度	
		設計・施工の連携	○	○	●	2023年度	
		設計・施工の連携	○	○	●	2023年度	
		設計・施工の連携	○	○	●	2023年度	
設計・施工	設計・施工の連携	設計・施工の連携	○	○	●	2023年度	
		設計・施工の連携	○	○	●	2023年度	
		設計・施工の連携	○	○	●	2023年度	
		設計・施工の連携	○	○	●	2023年度	
		設計・施工の連携	○	○	●	2023年度	
		設計・施工の連携	○	○	●	2023年度	
		設計・施工の連携	○	○	●	2023年度	
		設計・施工の連携	○	○	●	2023年度	
		設計・施工の連携	○	○	●	2023年度	
		設計・施工の連携	○	○	●	2023年度	

## 設計施工一貫方式におけるBIMワークフロー

『ガイドライン（第2版）』の標準ワークフロー④に準拠したBIMワークフロー

設計施工一貫方式における  
BIMのワークフロー  
(第1版)

セッション8：  
建築BIM合同会議  
(曾根部会長から報告)

一般社団法人 日本建設業連合会  
建築本部 建築BIM合同会議

# BIM部会としても活動しています (2022年度体制)

ゼネコン (19社、61名) + オブザーバー (6名)

## 建築生産委員会

### 施工部会

### 設備部会

### ICT推進部会

### BIM部会

- ◎ 部会長 : 曾根巨充 (前田建設工業)
- ◎ 副部会長 : 吉田知洋 (鹿島建設)
- ・ 幅広いBIMの活用を視野に、施工段階でのBIMの普及・啓発活動を行う

### 建築BIM推進会議 対応WG

- ◎ WGリーダー : 曾根巨充
- ・ 部会直轄のWG
- ・ 国交省主導の推進会議、部会、WGの活動に参画

### 施工BIM 専門部会

- ◎ 主査 : 本谷淳 (大林組)
- ・ 施工BIMのさらなる展開を見据えた活動を担う (承認・活用・標準化)

### BIM啓発 専門部会

- ◎ 主査 : 三輪哲也 (竹中工務店)
- ・ 活動するテーマに応じてチームを編成して柔軟に活動できる体制とする

### BIMモデル承認WG

- ◎ WGリーダー : 塩坂靖彦 (大林組)
- ・ 施工図/製作図を中心とした承認方法の検討
- ・ 承認に必要な属性情報の整理

### BIMモデル活用WG

- ◎ WGリーダー : 上中登貴弥 (清水建設)
- ・ 建築現場でのBIMモデルの活用方法の検討 (検査、進捗管理、など)

### BIM仮設ライブラリWG

- ◎ WGリーダー : 染谷俊介 (竹中工務店)
- ・ 仮設計画で必要になるライブラリの属性標準化の検討

# 本セミナーにおけるセッションの位置づけ

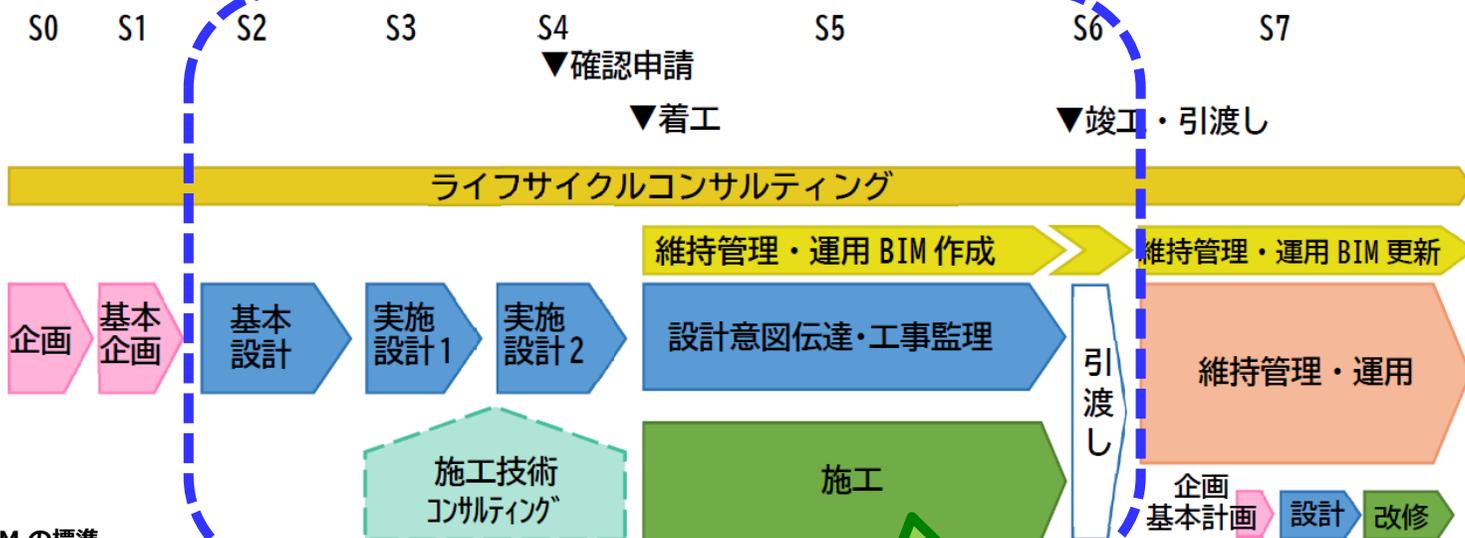
## 設計施工一貫方式におけるBIMのワークフロー

建築生産におけるBIMデータの活用  
[建築BIM合同会議]

## BIMを中心とした業務スタイル確立 (2030)

・日建連の建築BIM | 定着に向けたロードマップ  
[建築BIM合同会議]

【様々な主体がBIMを通じ情報を一貫して利活用する業務区分（ステージ）案】



図版出典：建築分野におけるBIMの標準  
ワークフローとその活用方策に関するガイド  
ライン（第2版）、国土交通省、2022.3

## BIMの取り組み状況

日建連会員企業におけるBIMの動向  
調査（速報）  
[BIM啓発専門部会]

## 施工段階におけるBIMデータ

・BIMモデル合意の次はBIMモデル承認  
・生産現場におけるBIMモデルの活用  
・仮設ライブラリの標準化  
[施工BIM専門部会]

